

ナント・地域経済調査結果

～奈良県内エリアの景気は総じて厳しい状況～

はじめに

今般、地域の経済状況等を把握するために「ナント地域経済調査」を実施し、その結果を取りまとめました。本調査の主たる対象は奈良県で、奈良県（三重県名張市を含む）を4つの地域に区分し、県域よりも狭いエリアにおける経済や景気の水準や方向性などを南都銀行の支店長等にアンケート調査を行いました。また、奈良県以外の南都銀行の営業エリア（大阪府、京都府、和歌山県）についても同様に調査を実施し、府県単位での結果を掲載しています。

1 調査の概要

1. 調査方法・時期

下記エリア内に存する南都銀行本支店の部長・支店長が自店の営業範囲における地域経済の業況について、店頭での顧客の様子や取引先企業、自治体・商工会等へのヒアリングなどにより総合的に判断した。調査時期は平成24年6月下旬～7月上旬。

2. 評価基準

評価は「良い・改善＝2点」「やや良い・やや改善＝1点」「どちらともいえない・不変＝0点」「やや悪い・やや悪化＝－1点」「悪い・悪化＝－2点」とし、エリアごとの評価点合計を、すべて「良い・改善＝2点」とした場合の合計点で除した数値に100を乗じて算出。評価の最高は100、最低は－100となる。なお、支店規模に応じてウエイト調整を行っている。

3. 調査項目

景気の水準と方向性に関して、個人に関する2項目（消費、資金需要）および企業に関する4項目（生産活動、収益、設備投資、資金需要）につ

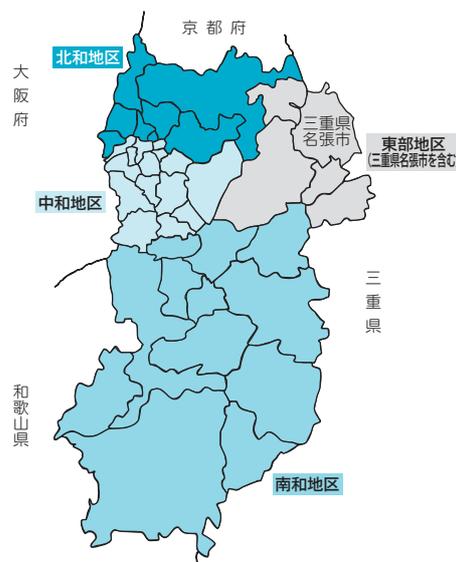
いて評価し、その評価に基づいて総合判定を行う。

4. 対象エリア

京都府、大阪府（兵庫県尼崎市含む）、和歌山県については府県単位とし、奈良県は以下の4つの地区に区分する。

- ①北和地区（奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市、生駒郡平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町）
- ②中和地区（大和高田市、橿原市、桜井市、御所市、香芝市、葛城市、磯城郡川西町・三宅町・田原本町、高市郡高取町・明日香村、北葛城郡上牧町・王寺町・広陵町・河合町）
- ③東部地区（宇陀市、山辺郡山添村、宇陀郡曾爾村・御杖村、三重県名張市）
- ④南和地区（五條市、吉野郡吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村）

<奈良県のエリア分け>



区分エリアと本支店所在地および店舗数

エリア	本支店所在地（マル数字は本支店の数）
北和地区【31か店】	奈良市⑩、生駒市⑤、大和郡山市③、天理市③、生駒郡④
中和地区【31か店】	橿原市⑥、大和高田市③、桜井市③、御所市③、香芝市③、葛城市②、北葛城郡⑥、磯城郡③、高市郡②
東部地区【6か店】	宇陀市③、三重県名張市③
南和地区【9か店】	五條市①、吉野郡⑧
大阪府【14か店】	大阪市⑤、東大阪市②、大東市①、八尾市①、羽曳野市①、河内長野市①、堺市①、泉佐野市①、兵庫県尼崎市①
京都府【14か店】	木津川市③、京田辺市③、京都市②、城陽市①、宇治市①、相楽郡③、綴喜郡①
和歌山県【7か店】	橋本市③、和歌山市①、紀の川市①、岩出市①、伊都郡①

*店舗が存在しない市町村がある。

2 景気の水準

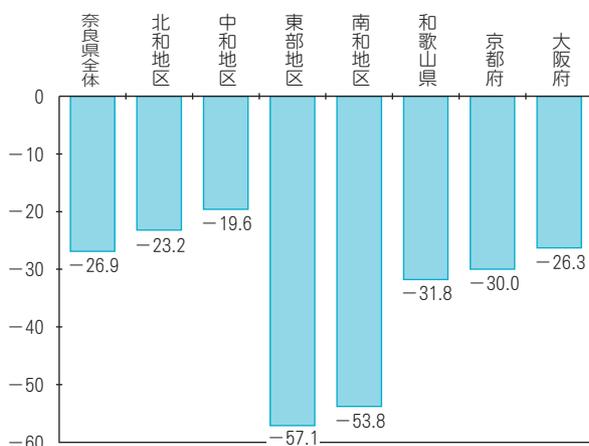
1. 総合判断

奈良県の景気水準は、奈良県全体では▲26.9となった。これをエリア別にみると、中和地区（▲19.6）、北和地区（▲23.2）、南和地区（▲53.8）、東部地区（▲57.1）の順となった。

奈良県の景気水準はどの地区においても低いが、その中でも東部地区・南和地区のマイナスが大きいが、なお、奈良県全体の水準は和歌山県、京都府、大阪府と遜色ないレベルだった。

*和歌山県、京都府、大阪府の営業エリアは奈良県と異なり、府県域全体を対象としていないことに注意が必要（以下同じ）。

景気水準（総合判断）



2. エリア別にみた項目ごとの景気水準

(1) 北和地区

北和地区			
個人消費	▲17.1	企業収益	▲31.7
個人の資金需要	▲24.4	企業の設備投資	▲35.4
企業の生産活動	▲25.6	企業の資金需要	▲29.3

(2) 中和地区

中和地区			
個人消費	▲16.3	企業収益	▲23.9
個人の資金需要	▲10.9	企業の設備投資	▲28.3
企業の生産活動	▲13.0	企業の資金需要	▲37.0

(3) 東部地区

東部地区			
個人消費	▲42.9	企業収益	▲57.1
個人の資金需要	▲50.0	企業の設備投資	▲85.7
企業の生産活動	▲57.1	企業の資金需要	▲78.6

(4) 南和地区

南和地区			
個人消費	▲38.5	企業収益	▲53.8
個人の資金需要	▲46.2	企業の設備投資	▲84.6
企業の生産活動	▲57.7	企業の資金需要	▲61.5

(5) 和歌山県

和歌山県			
個人消費	9.1	企業収益	▲31.8
個人の資金需要	▲22.7	企業の設備投資	▲31.8
企業の生産活動	▲9.1	企業の資金需要	▲36.4

(6) 京都府

京都府			
個人消費	▲12.5	企業収益	▲12.5
個人の資金需要	▲17.5	企業の設備投資	▲25.0
企業の生産活動	▲25.0	企業の資金需要	▲35.0

(7) 大阪府

大阪府			
個人消費	▲10.5	企業収益	▲18.4
個人の資金需要	▲15.8	企業の設備投資	▲31.6
企業の生産活動	▲15.8	企業の資金需要	▲31.6

3. 奈良県の特徴的事項

奈良県の4つのエリアは、比較的水準の高い北和地区・中和地区と比較的低い東部地区・南和地区との二極化が顕著である。

項目別では、総じて水準は低いが、特に「企業

の設備投資」と「企業の資金需要」の水準がどのエリアにおいても低調である。

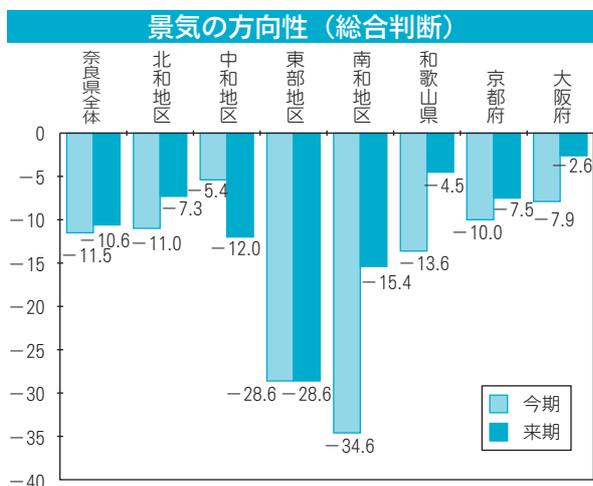
他府県との比較では奈良県は総じて下位に位置しており、「個人の資金需要」を除く全項目で最下位である。

3 景気の方角性

1. 総合判断

前期（平成 24 年 1-3 月期）と比べた今期（平成 24 年 4-6 月期）の景気の方角性は奈良県全体では▲11.5 となり、前期に比べ業況は「悪化している」。これを地区別に見た場合、中和地区（▲5.4）、北和地区（▲11.0）、東部地区（▲28.6）、南和地区（▲34.6）の順に悪くなっている。他府県では大阪府（▲7.9）、京都府（▲10.0）、和歌山県（▲13.6）の順となった。

今期（平成 24 年 4-6 月期）と比べた来期（平成 24 年 7-9 月期）の景気の予測は奈良県全体では▲10.6 となり、今期（▲11.5）と比べほぼ同様と予測している。これを地区別に見た場合、北和地区（▲7.3）、中和地区（▲12.0）、南和地区（▲15.4）、東部地区（▲28.6）の順に悪くなっている。他府県では大阪府（▲2.6）、和歌山県



（▲4.5）、京都府（▲7.5）の順となった。

来期、改善と予測するのは奈良県では北和地区（3.7 ポイント改善）、南和地区（19.2 ポイント改善）、他府県では和歌山県、京都府、大阪府だが、特に南和地区では▲34.6→▲15.4 と大きな改善を予測している。一方で、中和地区では 6.6 ポイント悪化、東部地区は横ばいと予測している。

2. エリア別にみた今期および来期の方角性

エリア別にみた奈良県の今期および来期の方角性は以下のとおりである。

（1）北和地区

北和地区では 3.7 ポイント（▲11.0→▲7.3）の改善予測となっており、個人消費の 2.4 ポイント改善（▲2.4→0.0）と個人の資金需要の 4.9 ポイント改善（▲12.2→▲7.3）といった個人の動きがその大きな要因である。その一方で企業収益は 8.5 ポイントの悪化となっている。

	今期(2012年4-6月期)	来期(2012年7-9月期)
個人消費	▲2.4	0.0
個人の資金需要	▲12.2	▲7.3
企業の生産活動	▲11.0	▲11.0
企業収益	▲9.8	▲18.3
企業の設備投資	▲14.6	▲11.0
企業の資金需要	▲11.0	▲11.0

（2）中和地区

中和地区では 6.6 ポイント（▲5.4→▲12.0）の悪化予測となっており、個人の資金需要の 10.9 ポイントの悪化（▲3.3→▲14.1）が大きな要因である。

	今期(2012年4-6月期)	来期(2012年7-9月期)
個人消費	▲5.4	▲8.7
個人の資金需要	▲3.3	▲14.1
企業の生産活動	▲3.3	▲2.2
企業収益	▲17.4	▲13.0
企業の設備投資	▲3.3	▲7.6
企業の資金需要	▲16.3	▲16.3

（3）東部地区

東部地区では横ばいの予測となっており、個人

消費の 14.3 ポイントの改善 (▲35.7→▲21.4) と企業の生産活動の 21.5 ポイント悪化 (▲21.4→▲42.9) および設備投資の 7.1 ポイント悪化 (▲50.0→▲57.1) が相殺されるかたちとなっている。

	今期(2012年4-6月期)	来期(2012年7-9月期)
個人消費	▲35.7	▲21.4
個人の資金需要	▲28.6	▲28.6
企業の生産活動	▲21.4	▲42.9
企業収益	▲50.0	▲50.0
企業の設備投資	▲50.0	▲57.1
企業の資金需要	▲57.1	▲57.1

(4) 南和地区

南和地区では▲34.6→▲15.4 と大きな改善を予測している。これは、昨秋、台風 12 号の被害を受けた紀伊半島一帯で建設業を中心にした復興工事の需要が見込まれているからである。

	今期(2012年4-6月期)	来期(2012年7-9月期)
個人消費	▲26.9	▲23.1
個人の資金需要	▲38.5	▲34.6
企業の生産活動	▲46.2	▲7.7
企業収益	▲30.8	▲34.6
企業の設備投資	▲38.5	▲26.9
企業の資金需要	▲38.5	▲15.4

これに伴い企業の生産活動が活発になることから▲46.2 から▲7.7 へ 38.5 ポイントの改善を予測するとともに、それに関連した設備投資においても 11.6 ポイントの改善 (▲38.5→▲26.9) を予測している。

4 まとめ

奈良県における現在の景気水準は総じて厳しい状況にあるが、そのなかでも東部地区と南和地区の水準が特に低い。また、「前期と比べた今期の方向性」と「今期と比べた来期の方向性」をエリア別に比較すると、北和地区と南和地区は「改善する」との予測だったが、横ばい（東部地区）、悪化（中和地区）と予測するエリアもあり、奈良県内での先行きの方向性は評価が分かれている。そういったなか、アンケートの自由意見をみると、奈良県内で太陽光発電関連のニーズが高まっていること、さらにそれに関する設備投資の増加に期待を寄せていることが全エリアでみられたことは特記すべき事項であると思われる。（丸尾尚史）

景気の方角性

	総合判断		個人消費		個人の資金需要		企業の生産活動		企業収益		企業の設備投資		企業の資金需要	
	2012年4-6月期	2012年7-9月期(予測)												
奈良県全体	▲11.5	▲10.6	▲7.7	▲7.2	▲11.5	▲13.9	▲11.5	▲7.7	▲17.3	▲19.2	▲13.5	▲12.5	▲18.3	▲14.9
北和地区	▲11.0	▲7.3	▲2.4	0.0	▲12.2	▲7.3	▲11.0	▲11.0	▲9.8	▲18.3	▲14.6	▲11.0	▲11.0	▲11.0
中和地区	▲5.4	▲12.0	▲5.4	▲8.7	▲3.3	▲14.1	▲3.3	▲2.2	▲17.4	▲13.0	▲3.3	▲7.6	▲16.3	▲16.3
東部地区	▲28.6	▲28.6	▲35.7	▲21.4	▲28.6	▲28.6	▲21.4	▲42.9	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲57.1	▲57.1	▲57.1
南和地区	▲34.6	▲15.4	▲26.9	▲23.1	▲38.5	▲34.6	▲46.2	▲7.7	▲30.8	▲34.6	▲38.5	▲26.9	▲38.5	▲15.4
和歌山県	▲13.6	▲4.5	0.0	13.6	▲18.2	▲9.1	13.6	22.7	▲13.6	▲18.2	▲4.5	0.0	▲22.7	▲9.1
京都府	▲10.0	▲7.5	▲7.5	0.0	▲10.0	0.0	▲10.0	▲10.0	0.0	▲7.5	▲10.0	▲17.5	▲22.5	▲12.5
大阪府	▲7.9	▲2.6	▲7.9	▲5.3	▲7.9	▲5.3	▲5.3	▲5.3	▲5.3	▲7.9	▲5.3	▲5.3	▲5.3	▲10.5